

能登半島地震から学ぶ防災意識



石川県からの派遣要請により、山梨県と県内市町村で班を編成し、1月から3月までの期間で、市の事務職員4人を石川県珠洲市へ派遣し、被災地支援を行いました。

支援活動の内容や被害状況を上野原市と重ね合わせて想像すると、とても他人事とは思えません。「いざとなればなんとかなる」、「自分は大丈夫」ではなく、実際に起きている災害を「明日は我が身」として捉え、備えておく必要があります。

【派遣期間および派遣人員】

- ・1回目 1月31日～2月6日 2人
- ・2回目 2月24日～3月1日 2人

【活動内容】

- ・珠洲市健民体育館での支援物資の管理
- ・在宅避難者への支援物資の配布 など

【活動環境】

- ・水道使用不可（簡易トイレを使用、入浴不可）
- ・電気、電話は使用可能
- ・体育館内で就寝
- ・水、食料持参 など



～被災状況から防災意識を醸成する～

災害が発生した場合、上野原市においても、「複数地域の孤立化、市自体の孤立化」、「水道・電気、電話、物流、交通機関などのライフラインの寸断」などの被害が起こり得ます。

具体的には、お風呂に入れ、トイレ、洗濯機、冷蔵庫、冷暖房、携帯電話が使えない、家の照明が点かない、食料が店にないなど、これまで当たり前にしてきた生活ができなくなってしまう。

常にこのような状況を想定して、気持ちも物もいざというときに備えておきましょう。